

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2017年11月1日 170号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第17回国際協力青年奉仕隊

★ レダ編 ★



乗馬体験を終えて。レダ農場、8月31日午後5時5分



パクーの養殖池に首まで浸かって収獲。



タロイモを陸に引き上げる。とても重い。



アオボウシンコ2羽を肩に乗せたら...

**思っているだけでは成せない！
研鑽と体験学習で大事となれ！**

本紙先号で、第十七回国際協力青年奉仕隊の歩みの前半である、オリンポにおける奉仕活動についてお伝えしました。今号では、それに続くレダ基地における諸活動と、帰国するまでの歩みをお伝えします。

二十九日 オリンポからボートでレダに到着した奉仕隊。川岸で中田所長とレダのスタッフが笑顔で迎えてくれる。一同トラックの荷台に乗って宿所に。ここで衣類の洗濯を一気にやってしまった。プールに飛び込む者もいて、青年たちの力は尽きない。

三十日 佐野氏より、レダプロジェクトの意義・歴史・展望について講義を受ける。次いで、中田所長の案内でレダの施設と活動現場見学ツアー。研修所、公館、ゲストハウス、パンタナル研究所、食品工房、養殖施設、農場、工事中の動物公園などを次々と見学。レダで長く重責を担ってきた所長の言葉が、青年たちの純な心を打った。午後は豚ランドへ。名物、豚の大集合シーンを見る。抱っこした仔豚は目に安心の色。次は斧を手に、増えすぎたヤシを伐採。手には血マメ。初期の開拓精神を体験した。

三十一日 中田所長の講話「夢があっても、やりたいと思っただけでは成せない。成すには、ひたすら自分を磨くこと。」次いでタロイモ収穫体験。泥田に入り、タロイモの旺盛な生命力を実感しつつ、技と力の使い方を学ぶ。収穫したタロイモはパラグアイ川の岸で洗い、食糧となった。午後はパクーの養殖池で漁労体験。池幅いっぱい網を大勢の手で持ち、猛魚を対岸に追い込む。体が浮いても必死で網を抑え、健康に成長したパクーを陸に上げる。さらに包丁を手で内臓を除去、商品化した。最後は乗馬体験。始めは牧童に手綱を引いてもらう。二周目は自ら手綱を取り、人馬一体、農場内を駆け巡った。(次面に続く)



斧に腰を入れ、ピンポイントで打て！



抱っこされた仔豚はすっかり安心。



カピバラたちは、この草が大好き。



人が馬を知り、馬が人を知る。



網を持って養殖池に入り、パクーを対岸に追い込む。



紅白のラパーチョが満開だった。

き上げ、礼拝と生活の場として繁栄したが、イエズス会宣教師たちが先住民とともに築き上げて、礼拝と生活の場として繁栄したが、

九月四日 早朝到着。チャーターした小型バスで、日系人移住地の一つ、ラパスへ。田岡功元駐日パラグアイ共和国大使の歓迎を受ける。日本人会館にて、同氏とJICAのシニアボランティアと懇談。日系移民の開拓史、現状と将来の課題などについて、豊富な実体験に基づく知見を学ぶ。資料館では、開拓史の記録である写真、農作業や開拓生活に用いた資材などを興味深く見学した。続いて、トリニダー遺跡を見学。18世紀、イェズス会宣教師たちが先住民とともに築き上げて、礼拝と生活の場として繁栄したが、



釣れた魚第1号はボガ。

ペス、ボガ等、まずまずだった。昼食後、陸路ローマ・プラタへ。四台の四駆でダートの道を疾走する。九月二日 ローマ・プラタから首都アスンシオンへ移動。路線バスと四駆を利用。九月三日 アスンシオン家庭教会の日曜礼拝に参加。続いて中庭で昼食と交流会があり、皆で一緒に歌やダンスを楽しんだ。次はスポーツ。日パ青年混成の男女別サッカー対抗試合。パラグアイ青年は普段の練習で鍛えられているが、日本青年もゴールにからむ活躍でしばしば応援席を沸かせた。夜は和食レストランに行き、理想郷造りを目指してきた伊藤玄一郎さんの生き様や見解などを聴き、各人の将来を考える上で刺激的な一助となった。その後、夜行バスに乗って南部の都市エンカルナシオンへ。

第17回国際協力青年奉仕隊（二面より続く）
九月一日 レダでの最終日。午前中は四隻のボートに分乗してパラグアイ川での釣りを体験。創始者文鮮明師夫妻の歩みを進める意味で、さまざまな体験学習の中でも釣りは特に重要視される。釣果は、ピラニア、マンジ、ペロ・デ・

よく帰着。感謝を捧げ、解散した。（小田記）
九月八日 アトランタ空港で乗り継ぎ。九月九日 午後二時半、成田空港に元氣よく帰着。感謝を捧げ、解散した。（小田記）

その後、アスンシオンの中心部を徒歩でミニ見学。家族や友や自分へのおみやげショッピングを楽しむ。夕食は反省会を兼ね、和食の店へ。一人一人の涙の証に胸が詰まる。夜、パラグアイ教会で結婚式に参列した。九月七日 朝、最後の感想文を書く。そしてアスンシオン国際空港へ。佐野氏、中井夫妻、今後レダで奉仕活動をする三名の男子隊員たちに見送られ、機上の人となる。往路と同様、サン・パウロ空港で乗り継ぎ。九月八日 アトランタ空港で乗り継ぎ。九月九日 午後二時半、成田空港に元氣よく帰着。感謝を捧げ、解散した。（小田記）

スペイン国王の力に屈し、現在は廃墟を見るのみ。彼らも、メノール教徒も、日系人も、パラグアイに理想郷造りを志したのである。九月五日 シウダ・デル・エステより路線バスで、ブラジルの町フォス・ド・イグアスへ。まず鳥の公園に行く。順路に従い巨大ケージ内を歩き、珍しい鳥たちを目の当りにする。すっかり人馴れしたオオハシと自撮りなどして、時間を忘れた。最後は、コンゴウインコを腕に止まらせて記念撮影。続いてイグアスの滝へ。天地創世をも彷彿させる、壮大な世界自然遺産と対面。近づくにつれ、その桁外れの迫力と美しさと類に当たる飛沫が、若い五感を揺さぶった。九月六日 午前六時半、アスンシオンの「日本学校」へ。幼稚園から大学院まで、日本の伝統的徳目に基づく教育を実践する、パラグアイ人子女の学ぶ日本学校。日本で霞みつつある精神文化が、ここではすこぶる元気に息づいている。圧巻は全校生徒の集う朝礼。両国歌と校歌の斉唱、校長のこたば、奉仕隊員の紹介、歌とダンスなど盛りだくさん。相互に啓発的な時間となった。abc新聞社を訪問。応接室で奉仕活動の報告をし、男女各一名がこの期間における体験とその印象について、インタビュに答えた。記事は九月十日の日曜版に掲載。その後、アスンシオンの中心部を徒歩でミニ見学。家族や友や自分へのおみやげショッピングを楽しむ。夕食は反省会を兼ね、和食の店へ。一人一人の涙の証に胸が詰まる。夜、パラグアイ教会で結婚式に参列した。九月七日 朝、最後の感想文を書く。そしてアスンシオン国際空港へ。佐野氏、中井夫妻、今後レダで奉仕活動をする三名の男子隊員たちに見送られ、機上の人となる。往路と同様、サン・パウロ空港で乗り継ぎ。九月八日 アトランタ空港で乗り継ぎ。九月九日 午後二時半、成田空港に元氣よく帰着。感謝を捧げ、解散した。（小田記）



日・パ青年スポーツ交流。シュート！



アスンシオンでもたちまち一つになる。



レダの夕日に遊ぶ乙女たち。



鳥の公園でオニオオハシとともに。



世界文化遺産トリニダーの聖堂跡へ。



ラパス日本人会を訪問。奥中央に田岡氏。



abc新聞社の記者が奉仕隊員にインタビュー。



日本学校の朝礼に招待される。



世界自然遺産イグアスの滝を見学。

奉仕隊員の感想文（レダ編・抜粋）

●レダでは、自然・動物・植物に触れて行く中で、今まで当り前と
思っていたことも「なぜ」とい
うことを考えることが多くありま
した。なぜ動物がいるのか、なぜ
色鮮やかに花が咲いているのだろ
うかというように探求して行くと、
それは私たち人間が喜んで楽しむ
ためであることを感じました。普
段日本の地では考えないことを経
験できたことは、私にとって大き
なことでした。（21男）●不毛の
地、地獄の中の地獄とも言われて
いたレダが、18年間で開拓がとて
も進み、福地が現れてきたことに
びっくりしました。そこには先輩
たちが不屈の精神で歩んで来られ
た、その魂が宿っていました。私
たちはこの先輩方の夢を壊さず、
継承して行くべき使命を感じまし
た。とどまることのない開拓を、
未来の子孫たちに残したいであら
るように努力して行きたいです。
（21女）●レダでは何もかもが感
動で、自然の中でただひたすらに
自然を眺め、自然に触れることが
全て感謝でした。きれいに咲き乱
れるラパーチョの花、鳥たちのさ
えずりと舞い、愛らしい顔としぐ
さのカピバラ。これが私（神様）
が創った最高のプレゼントだ、と
言わんばかり。地平線を燃やすよ
うな日の出、日の入り、そして満
天の星。毎日が神様の懐の中にい
るような温かさを感じました。猛
烈な勢いでエサを食む豚、そして
乗馬。嫌な気持ち一つなく、ただ
ただただ楽しんでる自分。すべて
創造なさったのだということを実
感しました。（21男）●レダで感
じたことの一つは、動物への感謝
です。馬に乗っているときに、私
は馬と一体になっている気がして、

走ってほしいときに走ってくれ、
曲がってほしいときに曲がってく
れ、少し速度を出し過ぎて怖いと
感じた時には速度を落としてくれ
ました。馬から下りた時は、心か
ら馬への感謝の気持ちがありまし
た。（22男）●レダは写真で見
たことは何度かあったけど、実
来てとても感激しました。レダ基
地の見学では、本当に何もないと
ころから造ったんだよね！と疑っ
てしまうくらい素晴らしいものば
かり。築いてこられた先生方の底
力、強靱な精神にど肝を抜かれま
した。タロイモの根の団結力。パ
クラーの養殖池の深さ。魚をさば
りて知る命の尊さ。カピバラを触
り気づく毛の強さ、でも臆病者、だ
けど癒し。日本の道路では決して
見ることのないワニ。馬も汗をか
くこと。釣りを通して、自らの課
題に直面したこと。それが一人の
先生の一言で救われたこと。トラ
ックの荷台に乗り、広い大地を見
ながら感じた風の心地よさ。自然が
すべて教えてくれました。（23女）
●レダでの体験は一つ一つが新鮮
で、一つ一つが喜びでした。生き
るって素晴らしいことだなと純粋
に感じました。（27男）●レダの
地で、豊かな自然を見て心が洗わ
れました。創造されたままの姿は
あまりにも美しく、それが私たち
人間のためであり、天の愛である
と知った時に、現代の人間はその
愛を本当に知ることなく、自分た
ちのためばかりに生き過ぎてしまっ
ていると思いました。ここは自然
を見て涙することのできる、そん
な場所だと思いました。何事もあ
きらめず、良い事も悪い事もすべ
て飲み込む、そのような精神がこ
こにありました。美しい自然にあっ
て、なお美しい兄弟姉妹なる仲間
たちも再発見しました。（23女）

第二十回環境問題研究会セミナー開催

九月二十三日秋分の日、午後一時半より、大山街道ふるさと館三階研修室において、第二十回環境問題研究会セミナーを開催しました。テーマは「将来の気候はどうなるかー異常気象と地球温暖化」、講師は気象業務支援センター地球環境・気候研究推進室長の鬼頭昭雄先生。参加者は四十八名でした。鬼

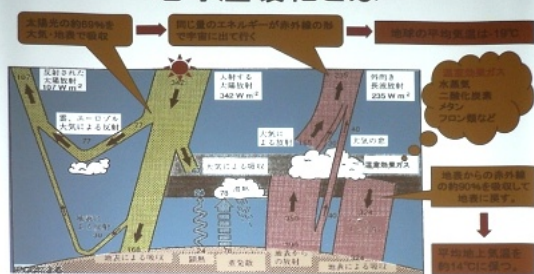


語る 鬼頭昭雄先生。

頭先生は、約二十年前にわたりIPCC第一作業部会第二次第五評価報告書の執筆責任者を務めた、地球温暖化問題の専門家です。セミナーでは期待どおり、綿密なデータに基づく図表を駆使した講義がなされ、

著気象現象は毎年のように起こっている」「過去八十年間の大気中二酸化炭素濃度と将来シナリオ」「二酸化炭素濃度の増加と海洋酸性化」「IPCC評価報告書が世界的な行動計画に大きな影響を与えてきた」等々。そして今後私たちの地球の気候がどのようになっていくか、どんな災害が予想され、脆弱性を減らすにはどのような手段が有効か、など緊張感のある内容が多くありました。最後に質疑応答と、恒例の記念撮影をして和やかに閉会しました。

地球温暖化とは



大気中の温室効果ガスの濃度が増えすぎると、温室効果が強まりすぎて、地球の気温が上昇。→ 地球温暖化現象
講義スライドの例＝地球温暖化とは。



講義終了後、恒例の記念撮影。9月23日

レダ開拓十八周年記念集会を開催



佐野道准氏



大山哲夫氏



岩澤春比古氏

十月八日午前十一時より、大山街道ふるさと館二階イベントホールにおいて、「レダ開拓十八周年記念集会」が持たれました。メインは開拓の始めから継続してレダとアスンシオンで献身的な歩みをして来た佐野道准氏の報告。レダプロジェクト創始の原点を再確認し、最近のエピソードを語り、エビ養殖ほか今後の展望を、集った多くの会員・支援者と共に有しました。近年は、国家的人物をはじめ世界各地からの訪問者が増え、レダの姿を直接見て、またその動機と構想を知って感動し、期待されるようになりま

ました。そしてその原点となっているのがレダに生きる人々の内的心情と精誠ではないかと確信し、中田所長とレダ基地のスタッフ各人の日常活動と、個性ある生活の一端を紹介しました。また日本に一時帰国中の大山哲夫氏も、豚ランドほか、レダでの体験を報告しました。「耳が遠くなつたが、その分、風の中に自然の音が聞こえるようになって」樹木と一問一答するといふ、心潤う話もありました。

次いで、レダに赴任するための準備を整えてきた岩澤春比古・前神奈川総支部長の挨拶がありました。出発は十一月一日です。その後皆で、用意されたお弁当をいただき、決意新たに十九年目への出発をして行きました。佐野氏は、十一月四日(土)開催のパンタナール一日研修会でも一講座を担当する予定です。



一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: asd-nsa.com

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名: シヤ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事へのご感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしております。宛て先は、事務局

office@asd-nsa.com

へお願いします。